

被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！

東日本大震災支援ニュース 第19号

全教・教組共闘 東日本大震災対策本部

2011年6月23日



「なんとしても、子どもへの教育保障したい」

6月15日、女川・石巻・東松島の教育委員会を訪問

全国からの募金に大きな感謝

全教・教組共闘は6月15日、宮城県、岩手県内の東日本大地震による被災市町村の11の教育委員会を3コースに分かれて訪問しました。訪問に際して、全国各地の教職員から寄せられた震災復旧・復興支援募金からの寄付金の目録をお渡しするとともに、被災状況、復旧・復興にむけてのとりくみの様子をお聞きしました。どの教育委員会でも募金の寄付に対して、「子どもと教育のために、大切にに使わせていただきます」との感謝のことばが寄せられました。

15日の訪問活動のうち、宮城県の中部にある女川町、石巻市、東松島市の各教育委員会を訪問したのは全教の加門憲文副委員長・日高教委員長、吉田正美専門委員、宮城県教組の白鳥利彦執行委員、宮城高教組の高橋治彦書記次長の4人です。

女川町教育委員会は町立小学校職員室に移設

最初に訪問したのは女川町教育委員会です。教育委員会も入っていた女川町役場が



津波で破壊されたため、役場の機能は女川市立第2小学校に移されていきました。教育委員会は小学区の職員室をお借りし、日常の業務がすすめられています。全教・教組共闘の訪問にたいして遠藤教育長、中郡教育総務課課長が対応。遠藤教育長は、「公的な施設では学校が高台にあったので何とか残った。人口の8割が何らかの被災をうけ、死亡または行方不明の住民は人口

の1割に及んでいる」と被害の大きさを紹介するとともに、「町が壊滅的な被害実態にあっても、子どもへの教育はどうしても保障したい」と決意を語ってくれました。懇談のあと、学校の中に設置された市民・子ども向けの臨時図書室に案内してくれました。



「仮設校舎の早期建設を」（石巻市）

2番目に訪問したのは石巻市教育委員会です。連休中の全教のボランティア活動では、石巻市教委の要請を受け、被災した市立中学校の机、いす、ロッカーなどの搬送作業を手伝いました。訪問には教育庁代理の今野事務局長らに対応。今野事務局長は「使えなくなった校舎の子どもたちは、学校を間借りして勉強をしているが、早く仮設校舎をつくってあげたい」と少しでも落ち着いた学習環境の整備が課題となっていると指摘しました。また懇談では、夏休み中のボランティア活動に関して、夏休み明けを控えての校舎清掃への協力要請の申し出がされました。

被災小学校にがれきの山が

この日最後に訪問した東松山市教育委員会では、木村教育長、市の小野総務部長らが出迎えてくれました。懇談の冒頭、木村、小野両氏から東松島市における地震、津波による被災実態について、ていねいな説明がされました。市内14の小中学校のうち6校が水につき、3校の校舎は使用不能になっています。18ルートに分けたスクールバスで子どもの送迎をおこなっていますが、子どもの数はすでに175人減少しました。町の復旧・復興プランに合わせて学校の建築をすすめたいとの願いが語られました。

教育委員会訪問後、使用不可能になった市立浜市小学校を視察しました。小学校近くの民家、商店はどこも全壊で住民の姿はまったく見られません。小学校のグラウンドには近所から集められたがれきが小山のようにたかく積み上げられていました。

